

長崎大 被災地に医療拠点

長崎大(片峰茂学長)は東日本大震災の被災地に医師らを派遣し、被災者の治療・診療に当たる医療拠点を設置する。同大の教員や事務職員3人が16日夜、乗用車に食料や医療器具、燃料などを積んで出発した。

片峰学長は「第2、3陣にどういふメンバーが必要なのか見極めてほしい」と述べ、送り出した。

一行は、17日に空路で羽田空港に向かう同大病院の医師や看護師と合流後、拠点設置の候補である岩手県遠野市に入る。後日到着

予定の本隊のため、拠点づくりに取り組む予定。

同大のスタッフでは、ハイチ大地震の直後に、被災地で医療支援に取り組んだ熱帯医学研究所の山本太郎教授が既に現地入りしている。

(永野孝)